

# 民報 ゆうばり

# 地域おこし協力隊員「子どもども食堂」開

# 新婦人まつり・「無名碑」法要・夕張労連大会

# ゆうばり子ども食堂 オープン！



貧困と格差がさらに拡大し、共働き家族が増えています。さらに、長時間・過密労働が当たり前になり、子どもだけで食事をすませる状況が生まれています。全国各地で、ボランティアで取り組まれている「子ども食堂」は、地域のコミユニケーションを再構築する取り組みとして、今注目を集めています。

「子ども食堂」の取り組みを、地域おこし協力隊の山口一樹さんにお聞きしました。子どもが地域のひとと触れ合えて、楽しく過ごせる場所があればいいな、と考えて周りの人に相談したところ、地域の優しさや風土の良さを学べる場になるし、孤食（一人で食事をすること）を防ぐ福祉的な観点からも良いのでは、ということになりました。炭鉱住宅であった場所を改装して地域の憩いの場として利用できる“清水沢コミュニティ

「子ども食堂」の取り組みを、地域おこし協力隊の山口一樹さんにお聞きしました。子どもが地域のひとと触れ合えて、楽しく過ごせる場所があればいいな、と考えて周りの人に相談したところ、地域の優しさや風土の良さを学べる場になるし、孤食（一人で食事をすること）を防ぐ福祉的な観点からも良いのでは、ということになりました。炭鉱住宅であった場所を改装して地域の憩いの場として利用できる“清水沢コミュニティ

若い方の意欲的な行動が夕張を変えつつあります。

私たちが力を合わせてできることは、「平和と青い地球を、子や孫にのこしていくこと」と、久世公子支部長から開会の挨拶がありました。来賓の夕張労連議長・筒井勇治さんからは、政府の働き方改革で労働条件が最悪の状況であることが話されました。

昼食には豚汁やデザートが用意され、お赤飯やおでんの販売もありましたが、あつという間に売り切れ。午後は、ビンゴゲームや大雨被害者支援のバザーでにぎわいました。その後、屋外には長沼農民連の方の新鮮な野菜や花卉を満載した産直トラック

1997年、北炭新鉱遺族裁判が提訴されて以来13年で、勝利の和解を勝ち取ったことを契機に、名称を「新婦人まつり」と改め現在に至る。

## 新婦人まつり 楽しく交流

9月3日(日)、新日本婦人の会夕張支部では、はまなす会館で新婦人まつりを開催しました。



市議会議員のくまが到着。両手にあふれるほどのお買い物、旧交をあたためた楽しい思いを持って用意されたマイクを着きました。《メモ》「新婦人まつり」の始まりは、「もみじまつり」でした。1981年10月16日93人の命を奪った新鉱大災害。夕張の谷間は燃えるような紅葉の色に染まっております、(もみじの色は犠牲になった労働者の血の色、怨念の色)と当時の事務局長吉川洋子さんが新聞に投書。1983年、全国の仲間の募金や物資の支援に支えられ、「第一回もみじまつり」を開催。遺族の裁判闘争に取り組む中で、母と子が家族が、幸せに生きることができると夕張を実現する事を願い、日々の苦勞や喜びを確認し合うための仲間のきずなを強めることを目指して開かれてきました。

# 「無名碑」法要開催

8月26日、末広墓地の「無名碑」の法要が、全日自労・夕張支部(現・建交労)の主催で執り行われました。

当日は、快晴無風の汗ばむ陽気の中、くまが桂子夕張市議や夕張労連・事務局長の熊谷泰昌さん、市の関係者の方々16名が碑前で手を合わせました。

主催者を代表して、久世公子さんが挨拶し、参会者一同は、供物のスイカやメロン、そして、手作りの五目御飯を食べ、故人を偲ぶ無名碑法要がしめやかに執り行われました。



# 第29回夕張労連定期大会開催



上限規制法案の提出・成立を狙っていることや、憲法9条に第3項を加えて、自衛隊を「合憲」にしようとしていることなど、今後の取り組みの重要性を強調しました。

来賓として挨拶をしたくまが桂子市議は、今年の4月から大きく動き出した夕張再生計画の具体的な事例を紹介し、「子育て支援、高校の魅力化による教育環境づくりや、住宅取得の補助金政策などで、夕張に若い世代が定着するための政策をとっている」と述べ、鈴木市政の評価できる面と、市民参加をさらに強め、住民自治の必要性を訴えました。

また、道労連の出口事務局長は、安倍政権の共謀罪法強行採決や森友・加計学園問題に見られる政治の私物化で、支持率の大幅な下落を示し、総選挙情勢が流動的である点を指摘しました。

また、組合活動の強化を進める取り組みで様々な職場で有期雇用

9月10日(日)旧夕張小学校のらぶらすにおいて、夕張労働組合総連合(夕張労連)の第29回定期大会が開催されました。

また、今月末に開かれる臨時国会で残業代ゼロ法案と残業時間の

の労働者が雇止めにあっていることをあげ、「新しい法律の適用で無期雇用に切り替えが可能であることを訴え、積極的に支援して無期雇用となり、組合加入になった例もある。」などを話し、身近にいる仲間の相談に取り組みる事を提起しました。

また、夕張労連加盟の各組合から活動報告があり、教育現場の報告のなかで高校現場では「魅力化」を進める取り組みが始まり、期待されているが、教職員の多忙化につながる可能性があり、教員の定員問題と関連して進める必要性を指摘しました。また、ネット通信を利用する授業が様々な分野で取り組まれていることに関して

も、本来の教育とは何かを問う観点を入れながら進める必要性を訴えていました。

大会は次年度に向けた活動方針と新役員を選出など、提案された事項の採決を行い全会一致で承認されました。



島山和也「国会かけある記」  
衆議院議員

# 島山和也

## ソバが取り持つ縁

国会内には、いくつか食堂などがあります。先日、よく行くソバ屋さんでバツタリと自民党のM衆議院議員と会いました。せっかくなので二人並んで、ソバを食べました。

Mさんは政務三役経験があり、今は自民党内でもある役職に就いています。ある議員立法の作業の際に面識ができて以来の仲で、会うたびに「共産党ががんばってくれたから成立できた」と言ってくれます。なぜか私に取りまとの功労者と思われていて、そのたびに恥ずかしい思いをします。

このソバ屋さんは国会内だけでなく、いくつかの省庁にも出店しています。もとは官僚出身のMさんが「よくソバを食べていたんだよ。出向でしばらく本省から離れて、戻ってソバ屋に行ったら『しばらく来なかつたじゃないか』と言われるね。覚えてくれてたんだね」と話をされ、国会論戦では「共産党の議員は本当に鋭い質問をしてくるよね」とも。立場の違いはあれ、ていねいに答弁するMさんを知っているので興味深く話をうかがいました。

自民党内にも議員一人ひとりに様々な方がいますが、安倍政権以降、党内がモノトーン(単色)化して異論を言えなくなつたと言われます。いずれにしても、憲法破壊や国民が被害を受けるような政治を終わらせることが今の一番の仕事。その日本共産党の筋を通す姿勢は、自民党の議員もよくわかっていることでしょう。お互いに「がんばりましょう」と述べあって、ソバ屋を後にしました。

※お知らせ  
くずさんの夕張歴史散歩」は筆者の都合で、しばらくお休みします。